

大学生訪韓団（第1～2団）派遣事業の記録

1. プログラム概要

【目的】日本全国から選抜された大学生らを韓国に派遣し、各種視察、大学訪問等を通じた同世代との交流、講義聴講等を通じて、韓国の社会や文化に対する理解を深め、日本の魅力を広く積極的に発信することにより、今後の日韓間における相互理解の促進や信頼関係増進の基盤強化に寄与することを主目的とする。

【参加者】 プレプログラム（オンラインによる事前学習） 日本の大学生等 90 名
派遣プログラム 日本の大学生等 89 名

【訪問地】 プレプログラム 京畿道城南市 90 名
派遣プログラム ソウル特別市、京畿道城南市、京畿道高陽市、京畿道坡州市、
全北特別自治道全州市、釜山広域市 89 名

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

3月1日（土） オリエンテーション（プログラム説明）、講義

■ 派遣プログラム：

3月9日（日） 仁川国際空港より入国、オリエンテーション

3月10日（月） 【講義】「世界の中の日本と韓国」、【表敬】韓国国立国際教育院、
【大学訪問・交流】東国大学

【講義】「韓日文化コンテンツ産業の現状と未来」

3月11日（火） 【視察】龍山戦争記念館、【視察】烏頭山統一展望台、
【文化体験】ワールドK-POPセンター

3月12日（水） 【企業訪問】現代モータースタジオ高陽、【視察】ソウル市庁舎、【視察】景福宮

3月13日（木） 全州市へ移動、【文化体験】韓紙工芸、韓服、【視察】慶基殿、
【文化体験】韓屋ステイ

3月14日（金） 釜山市へ移動、【学校訪問・交流】釜山大学、
【講義】「釜山からみた日韓交流史」、成果報告会

3月15日（土） 金海国際空港より出国

2. 記録写真



2025年3月10日【講義】「世界の中の日本と韓国」



2025年3月10日【大学訪問・交流】東国大学



2025年3月11日【視察】龍山戦争記念館



2025年3月11日【視察】烏頭山統一展望台



2025年3月12日【企業訪問】現代モーター スタジオ高陽



2025年3月13日【視察】慶基殿



2025年3月14日【大学訪問・交流】釜山大学



2025年3月14日 成果報告会

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 日本 大学生

戦争記念館で朝鮮戦争について学んだが、展示品には当時使われていた武器や当時の人々が語りかけるようなパネルがあり興味深かった。また、質問に対するガイドの方の回答も現在の韓国を知る上で重要な手がかりとなった。その後訪問した烏頭山統一展望台では北朝鮮の人々や建物を見ることができたが、韓国と北朝鮮の社会格差を自身の目で見るという貴重な体験を通じて、南北統一への考えが深まった。

◆ 日本 大学生

訪韓を通じて感じたことは「人と人との繋がりはとても温かいもの」だということ、そして「実際に自分の肌で感じることに大きな価値がある」ということだ。国を越えて自分の身体で状況を知るということは決して簡単なことではないが、身近にある情報を鵜呑みにせず、自分の肌で感じること、学ぶことがどれだけ大切なのか知るきっかけとなった。

◆ 日本 大学生

烏頭山統一展望台の望遠鏡から見た北朝鮮の建物は韓国との対比で個人的には時間が止まっているような感覚だった。実際に北朝鮮で生活している人を見て、そこにも生活はあるということを強く認識するきっかけとなったとともに顔の見えない関係では相手への理解が進まず、この望遠鏡で見るという行為は全く別のものを見る感覚になるため見えない壁ができてしまう一因にもなりうる二面性を持っていると感じた。

◆ 日本 大学生

東国大学では日本に関心を持っている学生たちと交流することができて非常に面白かった。日本語をとてとても上手に話し、春から日本の大学に交換留学をする方とも出会えたことで、自分も韓国語をもっと勉強するなど積極的に行動を起こそうと思うことができた。同世代の方々と話す機会は非常に貴重な経験であり、それぞれの意見を踏まえて話し合いができたことで相互理解を深める良いきっかけとなった。

◆ 日本 大学生

韓国で日本に対する関心の高さを実感できたことは大きな発見だった。街中で日本人だと気づくと日本語で話しかけてくれたり、日本食のお店が多くあったり、カフェやショップで日本の音楽が流れていたり、日本を感じる瞬間が想像以上に多かった。両国の若者文化は相互に影響し合っており、政治的な対立があっても民間レベルでの交流は続けていくべきだと実感した。

◆ 日本 大学生

プログラムを通して韓国社会の現代の姿と歴史的背景を学ぶ中で、現在と過去とがとりわけ戦争史によって交差し、影響し合う様を目の当たりにした。自身は高校時代日本史を選択していたが、日韓の戦争史に関する知識は非常に限定的なものである。今後は勉強不足を反省し、日韓関係を一層深く理解すべく、日韓ひいてはアジア太平洋地域における戦争の歴史について両国の視点から学びたい。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 韓国側受け入れ機関担当者

今回のプログラムは日韓の大学生間の交流、韓国の安全保障の現状、教育と文化、過去と未来を経験できるように計画した。プログラムを通じて両国の大学生が交流し、お互いに対する理解が深まる姿を見ながら担当者としてやりがいを感じた。このプログラムが両国間の理解促進を通じた協力基盤の構築とネットワーク形成に寄与することを願い、より良いプログラムとなるよう尽力していきたいと思った。

◆ 学校訪問先関係者

一回の出会いでお互いを知るには時間が足りないかもしれないが、今回の交流がお互いのことを知る大切な絆の第一歩となり、これからの日韓交流の礎になることを期待している。日本と韓国について知ることにより、今まで気がつかないうちに作ってしまっていた壁をなくし、お互いのことや自分自身のことを知るきっかけとなればと思う。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

 <p>Instagram post from 2025年3月10日 showing a presentation slide at a meeting. The slide text includes: 2025年 日韓学生文化交流促進委員会主催 韓国訪問団 12期 研修, Day2 (3月10日), and 2025年 日韓学生文化交流促進委員会主催 韓国訪問団 12期 研修. Below the image is a caption in Japanese: 「韓国訪問がスタートしました！」。東京国際大学の歓迎式で、在韓日本人大使館の方の講演に参加し、東国大学で日本滞留中の学生と交流、一緒に研修を体験しました。韓国訪問をきっかけに、本授業の方の講演会です。韓国の国際関係の捉え方、日本の立場や今後の日韓関係について理解を深めたいです。政府方針と国民感情の間に相互作用があることを実感しました。韓国訪問が実現を期待することができるとして、私たちが参加する大学生訪韓団の役割の重要性がより増してきます。</p>	 <p>東国大学の学生との交流会では、私たち訪韓団が各自用意してきた日本の魅力のプレゼンテーションを通じ、日本をより肌で感じてもらえるように努めました。日本学科の学生は日本語のレベルが非常に高く、韓国語と日本語を混ぜて会話をしました。私自身、東国大学の学生から得た刺激をもとに、これからより一層韓国語の勉強を頑張ろうと思いました☺️</p>
<p>2025年3月10日（Instagram）</p> <p>特に印象に残ったことは大使館の方の講義で、現在の国際関係の捉え方、日本の立場や今後の日韓関係について話していただきました。政府の方針と国民感情の間には相互作用があり、国民感情が政府を動かすことがあるとすると私たちが参加する大学生訪韓団の役割の重要性がより増してきます。</p>	<p>2025年3月10日（note）</p> <p>東国大学の学生との交流では、私たち訪韓団が各自用意してきた日本の魅力のプレゼンテーションを通じ、日本をより肌で感じてもらえるように努めました。日本学科の学生は日本語のレベルが非常に高く、韓国語と日本語を混ぜて会話をしました。私自身、東国大学の学生から得た刺激をもとに、これからより一層韓国語の勉強を頑張ろうと思いました。</p>



2025.03.11(日)

Bays 2025.03.11

【主な通観】
 戦争記念館
 釜山統一展望台
 ソウル特別市 京畿道城南市 京畿道高陽市 京畿道坡州市 全北特別自治道全州市 釜山広域市

3日目は戦争記念館や高陽訪問、歴史を学び、北緯38度線と南北に分かれた朝鮮半島や世界唯一の分断国家について理解を深めることができました。特に、「自由はタダのものではない」という言葉が印象的で兵役制度や北朝鮮との距離が460mという場所もあることなど、緊張と平和が共存する状況を目の当たりにしました。



4日目で1日1日学びました。現代モータースタジオで、自動車製造の過程や水素自動車、空飛ぶ車の想定構図など自動車業界の現代から未来を体験してきました。ショールームを訪れる方々を眺めながら、韓国の車事情や日本の自動車製造についても興味を持つ良い機会となりました。

2025年3月11日 (Instagram)

戦争記念館と烏頭山統一展望台を訪れ、北緯38度線を境界に分けられた朝鮮半島や世界唯一の分断国家について理解を深めることができました。特に「自由はタダのものではない」という言葉が印象的で兵役制度や北朝鮮との距離が460mという場所もあることなど、緊張と平和が共存する状況を目の当たりにしました。

2025年3月12日 (Instagram)

現代モータースタジオでは、自動車製造の過程や水素自動車の仕組み、空飛ぶ車の想定構図など自動車業界の現代から未来を体験してきました。ショールームを訪れる方々を眺めながら、韓国の車事情や日本の自動車製造についても興味を持つ良い機会となりました。

6. 報告会での訪韓成果とアクション・プラン発表

(訪問地：ソウル特別市、京畿道城南市、京畿道高陽市、京畿道坡州市、全北特別自治道全州市、釜山広域市)

Jenesys2024 大学生訪韓団

1. 活動の目的
 2. アクションプラン
 3. 訪韓中に学んだこと・感じたこと

Jenesys2024 大学生訪韓団 (第2回)

1 訪韓中に学んだこと・感じたこと
 2 アクションプラン
 3 テーマ関連のプログラムの感想

【訪韓中の学び】
 訪韓前、私の韓国に関する知識は、歴史の教科書や韓国のコンテンツを通じたものだった。しかし、現地で直接学んだことで、歴史観や価値観の違いを肌で感じる事ができた。韓国の方々が過去の歴史に対して辛い思いを抱えながらも、未来志向で前に進もうとしている姿に共感し、この姿勢に触れ、私は日韓交流の本質について改めて考えさせられた。

【訪韓中の学び】
 今回の訪韓を通じ、韓国の過去・現在・未来の文化についての理解を深める事ができた。特に伝統的な宮殿と近代的な建物が共存している街並みが印象に残っており、韓国の伝統を未来世代へ紡いでいく姿勢に感銘を受けた。また、融合によって伝統文化は新たな息吹を得ながら受け継がれ、現代技術はその可能性をより広い領域で発揮することができるようにするもので

<p>【テーマに関する訪韓中の発表】</p> <p>●平和 戦争記念館、烏頭山統一展望台、ソウル市庁舎への訪問を通じて、朝鮮半島の平和について深く知ることができた。朝鮮戦争での歴史を含め、現代にまで続く緊張関係を視覚的に感じとった。</p> <p>●経済 現代自動車の躍進。水素自動車、EV の開発を通して、温室効果ガス排出削減などのような環境に配慮した自動車開発の現場をフィールドワークすることができた。</p> <p>●教育 東国大学、釜山大学を視察し、各大学の学生との交流を行った。現地の教授による講義を受け、日韓の文化コンテンツ産業や釜山から見た日韓交流史について学ぶことができた。一方で、韓国の教育格差について、十分な教育が施されている一方で、過疎地域における教育格差の可能性は否めないと推測した。</p> <p>【アクション・プラン】</p> <p>①ボランティア先での紹介 日ごろ活動しているボランティア先でプログラムを紹介することで、国際交流の幅をさらに広げる。加えて、今回の視察の様子を座談会で話すことで、日韓の文化交流への関心を高める。</p> <p>②大学の広報 WEB サイトに掲載 これまで携わってきた国際交流に加え、その一環として今回の視察を WEB サイトに掲載してもらうことで、プログラムの広報の役割を果たす。</p> <p>③在籍大学のゼミで報告会をする 所属する国際関係論のゼミで、成果報告を行う。ゼミ内で需要があれば朝鮮半島情勢に詳しい教授をお呼びして勉強会を開催する。</p>	<p>あると気づくことができた。訪韓を通して学んだ韓国の良さをより多くの方に伝えていきたいと考えている。</p> <p>【テーマに関する訪韓中の発表】</p> <p>特に戦争記念館と烏頭山統一展望台が印象に残っている。戦争記念館には朝鮮戦争に徴兵された人々が語りかけてくるような言葉や実際に使われていた物の展示が多くあった為、教科書では学ばなかった詳細な内容まで知ることができた。またガイドの話や戦争記念館からバスに戻る際に軍服を着た兵役の方々を見たことで朝鮮戦争はまだ終わっていないということを再認識するとともに、日本と韓国の戦争に対する考え方には、やはり差異があるのだと感じた。加えて、烏頭山統一展望台で見た北朝鮮と韓国の風景も戦争と平和を考える上でとても印象的だった。展望台から牛を使って農作業をする人や人々が生活する建物を見たことで韓国と北朝鮮の社会経済的な格差を目の当たりにし、私が思っていた以上に「南北統一」には様々な問題があるのだと実感した。</p> <p>【アクション・プラン】</p> <p>①大学のホームページや大学公式 Facebook にプログラムの概要を掲載</p> <p>②所属している地元の国際交流協会にて、今回体験したことや得た気づきについての情報発信</p> <p>③共に訪韓した団員や訪韓中に出会った韓国の大学生との交流継続</p>
--	--

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金